

## スキマバイト

使用者委員 吉田健朗

最近自分の働きたいタイミングで短期、単発、短時間で働くスポットワークなる働き方が増えてきているらしい。いわゆる「スキマバイト」とも言われスマートフォンのアプリから自分の働きたい条件に合った仕事を探し応募し、仕事が終わればすぐに指定した口座に給料が振り込まれる仕組みだ。

国内で450万人が「スキマバイト」で働いていると推計されており、「スキマバイト」で働きたいと思っている潜在人口はその3倍強の1400万人もいるとのこと。

働きたいときに働きたい仕事をして即金で給料ももらえるならば、会社の都合でやりたくない仕事をする働き方より働き手にとって魅力を感じるのは当然のことだろう。

背景には恒常的な人手不足、とりわけ不人気職種の人材確保難があるのだと感じる。

実際、不人気業種を営む弊社においても年々求人コストは上昇しているものの、人手不足は一向に解消できない状況だ。

履歴書や面接すら満足に無い上に、教育・研修も全く受けていない人材を自社の従業員として働かせることによるサービスの質や安全性の担保、個人情報の管理などクリアすべき課題は多く弊社においては「スキマバイト」はまだ利用していないものの、首都圏の同業者は積極的に活用している会社もあり色々情報をもらいながら仕事の切り分け方やマニュアルの作成など活用の仕方について研究をはじめている。

厚生労働省の「令和6年版労働経済白書」によると「就業希望はあるが求職していない無業者」は約460万人もいるとのデータがある。働きたい仕事の求人が無いといったこともあるだろうが育児や介護・看護などで働けない人も大勢いるようだ。無理なく働けるタイミングと仕事内容を提供することでそういった層を掘り起こせるのであれば人手不足解消の糸口となるはずだし、それを今手軽にアプリ等で可能にしているのが「スキマバイト」なのだろう。

まだ利用者も会社側も不慣れでミスマッチやドタキャンなどトラブルも多くあるようでお互い試行錯誤の段階なのかもしれないが、いつしか従来の求人手段が無くなり「スキマバイト」のような働き方、求人方法が当たり前の時代がすぐそこまで来ていると感じている。